



全国連合退職校長会

会報



年頭所感

「これからの教育の在り方」

会長 入子 祐三

令和四年の

新春をお迎えのこと

お祝い申し上げます

迎春のお慶びを申し上げます。本年も変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。

昨秋まではコロナ禍の猛威に晒され、諸会議をはじめ諸活動を自粛することになりました。初冬になって、緊急事態宣言が解除され平常な生活リズムで過ごせる状況になり、嬉しく思っております。何としても、再拡大しないことを祈るばかりです。新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、多くの学校で「三密」を避ける「学習の場の保障」を行いました。長期にわたり通常の教育活動「対面式学習」が出来にくい中、様々な対応を行いました。

現在、各学校では、感染対策をしつつ、GIGAスクール構想の本格導入をはじめ、ICTの活用が進みつつありますが、今回のコロナ禍によって、初等教育の在り方が問い直される契機になり、令和四年度の課題となりました。

1 教師等の指導体制の充実

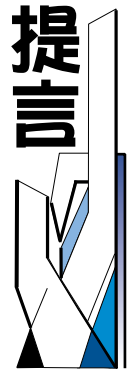
伝統的学習・指導法からデジタル化の教育へ向きを変える必要性が問われ、充実した指導体制が求められることになりました。念願であった、小学校高学年における教科担任制の推進や、小学校の35人学級の計画的な整備等の関係法令の改正が進み、良かったと思います。義務教育9年間を見通した指導体制による質の高い教育の実現が希求されます。指導体制の充実に伴って留意して欲しい点は、「働き方改革」

と、複雑化・困難化する教育課題に対応するための教職員定数の改善があります。また教師の負担軽減のための教員の業務支援員や部活動指導員等の支援スタッフを拡充する必要もあります。

2 着実な学びの推進・充実

デジタル化教育に伴う現職教員の資質の向上のため、研修は欠かせない問題だと思います。現職研修の持ち方一つ考えても重い課題と考えます。加えて教員養成制度の見直し等は、着実な学びの推進のために検討を要する課題と考えます。

ICTを効果的に用いた児童生徒の学びの充実に向けた「指導面の支援」の更なる強化を図るとともに、基盤となる学校ネットワークの在り方に関する検討も必要かと思えます。また、小・中学校等におけるデジタル教科書の普及促進を図るとともに、活用を推進する教育の質の向上を図る必要があります。デジタル化が進んだ教育の姿は、変わると思えます。充実を期待し、支援に努めたいと思います。



「コロナ禍での支援を」

副会長（近畿地区） 久保 英志

二年続けて新型コロナウイルス感染症によって、私たち近畿地区退職校長会では、総会をはじめ諸事業や会議などさまざまな活動が中止されました。

そして、学校現場においても音楽や体育などの学習活動の制限、部活動や野外活動の制限・中止など、通常の教育活動にも影響が及んでいます。また、感染症対策はもちろん、オンライン授業の準備や実施上の課題、不登校の増加が過去最大となるなど、学校現場の負担は増える一方です。加えて、これまで休校が続いたり、オンライン授業が実施されたりすることで、子どもたちと先生方との関係が希薄になってきており、今後、様々な問題行動が発生することが懸念されています。

そんな中であって、私たち退職校長会は学校現場への支援として何ができるのでしょうか。

まずは、退職校長会の組織としての活動の中で、近況報告や情報交換を密にし、会員相互の絆を深めること。例えば、SNSの活用やホームページの開設オンライン会議の開催などの工夫が必要ではないでしょうか。

そのうえで、事情が許せば、私たち自身が学校へ足を運び、先生方の話を聞いて相談に乗ったり、授業支援を行ったりすること。また、地域や保護者の学校に対する意見や考えを聞いて、地域・保護者と学校を結び懸け橋となったりするなど、このほかにも学校現場を支援することはいろいろと可能ではないかと思えます。

いずれにしましても、私たち自身の退職校長会の組織の活性化を図るとともに、学校現場を支え、コロナ禍にある子どもたちが無事にこの難局を乗り越えられるよう支援していくことが大切であると考えています。

一人一台端末

副会長（四国地区） 濱田 治

令和元年十二月、「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて」と令和時代のスタンダードとしての一人一台端末環境」と題した文部科学大臣メッセージが出され、一人一台端末、クラウド活用、高速通信ネットワーク環境の実現を目指すGIGA（Global and Inno-vation Gateway for All）スキル構想がスタートした。当初令和五年度末整備完了する計画が新型コロナウイルス感染拡大を受け三年前倒しされ、昨年度末には全国の小中学校で概ねこの環境が整ったようである。

約半世紀前、私が教員生活をスタートした当時、授業改善を旨とし、各教室にOHPとスクリーンが整備する計画があったことが頭をよぎった。一人一台

端末や関連環境の整備はそれに比べ質的に異なる可能性を秘めていると思う。

だがこの端末や環境については子どもだけでなく教職員の不適切な使い方がニュースになることも少なくない現実があり、情報セキュリティ、情報モラルの問題があることも事実である。端末の有効活用のためにはこの解決が求められることは当然であるが、それは異なる側面の大きな課題があると思う。

それは教員意識、教員文化のことだ。教員生活のスタートを切ったばかりの若い教員には配備された端末に違和感はないかもしれないが、黒板とチョークの世界で教育を受け授業を行ってきた多くの教員は戸惑いを感じざるを得ないだろう。

これらの課題が解決され、この端末や環境が有効活用され、すべての子ども達に個別最適化された教育環境が実現することを願っている。

全国校園長会長より



全日本中学校長会

会長 宮澤 一則

新しい時代の学校教育

新たな年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

本年も、皆様にとって、よき年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

また、全国連合退職校長会の皆様におかれましては、全日本中学校長会の様々な活動に対し、ご指導やご支援を賜り、深く感謝しております。

さて、中学校においては今年度、学習指導要領が全面実施となり、新しい時代を生きる子供たちに必要な力として「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」が示されました。これらの力を身に付けさせるため「個性」や「主体的・対話

的で深い学び」について、実践しているところです。さらに「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の重要性が示されました。これを受け、学校では、個々の生徒のよさを引き出す教育等について、工夫しながら取り組んでいるところです。また、Society 5.0に向けた教育も実施していく必要があります。AIではできないこと、つまり感性や思いやりの心などの「人間らしさ」が、新しい時代では大変重要になってくると思います。

このほかにも「いじめ」や「不登校」など生活指導上の問題、「学力の向上」、「GIGAスクール構想」の実現、「教員及び管理職の人材確保」、「部活動の地域移行」、そして「働き方改革」や「感染症予防対策の徹底」など、喫緊の課題も多くあります。また「貧困状態の子供の支援」、「ヤングケアラー」、「家庭や自治体における経済格差」など、経済的な課題も存在しています。さらに、地球の温暖化現象など、グローバルな課題についてもSDGs」と関連付けながら取り組んでいるところです。

このように現在は教育改革の真最中ですが、全日本中学校長会としては、新教育ビジョンを

よりどころとして、全国の校長先生方の意見を集約しながら、英知を結集し、協力し合いながら対応しているところです。全国連合退職校長会の皆様におかれましては、今後も引き続き、ご指導賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



全国高等学校長協会会長

杉本 悦郎

「新たな局面を迎えて」

全国連合退職校長会の皆様には、日頃より、本協会の活動並びに運営等に御協力御支援賜り感謝申し上げます。

さて、昨今の高等学校を巡る教育情勢は、新たな局面を迎えています。

新学習指導要領が、令和四年度の入学から年次進行で実施されます。実施に伴う観点別学習状況の評価の充実が喫緊の課題です。「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力

等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養という、三つの観点に再整理された各教科の目標や内容に照らして行う観点別評価の質を高めることが重要となります。

また、GIGAスクール構想を踏まえ、高等学校におけるICT環境整備及び指導体制の充実が急務となっています。一人一台端末の導入など、教育環境の変化によって、高等学校における「学び方」「教え方」「働き方」が大きく変容しようとしています。

その他にも、教員の働き方改革、「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現、学校安全の推進など、課題は山積しています。

こうした様々な課題と対峙する私たちにとって、正確な情報を収集し、先行事例等を活用することにより、方向性を定め、適切に判断し、学校経営を行っていくことが重要です。そして、新たな局面を迎えた教育課題に対応するために、全国連合退職校長会を要とした関係諸団体との連携を一層強めていきたいと考えております。

今後とも、変わらぬ御指導御鞭撻を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



新しい時代の 特別支援教育の推進

全国特別支援学校校長会
会長 市川 裕二

全国連合退職校長会会員の皆様には、長年にわたり学校運営の最高責任者として、学校教育の充実・発展のために多大な貢献をされ、現在もなお教育界の先達として御尽力いただいていることに対し、心から敬意と感謝の意を表します。

さて、令和3年1月に新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議の報告が取りまとめられました。同報告では、特別支援教育を進展させていくために、障害のある子供と障害のない子供が可能な限り共に教育を受けられる学びの場の整備や通常の学級、通級による指導、

特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の一層の充実・整備を着実に進めていくことが示されています。加えて、こうした推進のためには、特別支援教育を担う教師の専門性の向上が重要な課題となり、特別支援教育は、全ての学校において行われることを踏まえ、全ての教師に求められる特別支援教育に関する専門性の育成の必要性が大きな課題として取り上げられています。こうした全ての教師の育成や、教師を目指す大学生の育成については、退職校長会の会員の皆様のお力添えに大きく期待するところです。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、各学校では、必ずしも十分な教育の提供ができなかった部分もあると考えます。新しい時代を迎え、障害のある子供たちの健康を守り、一人一人の子供たちの持てる力を精一杯高めていく特別支援教育の推進に努めます。



各支部の活発な 活動を願って

青森県退職校長会
事務局長 鳴海 強

令和元年秋、東北地区退職校長会協議会を青森市で開催以後、年明けから新型コロナウイルス感染症拡大が始まった。本県も県本部、県内6支部共に活動を縮小せざるを得なかった。

令和2年3年と総会を理事会で代え、研修会・懇親会は中止とした。特に、令和2年の東青支部で開催予定の研修会が中止を余儀なくされたことは残念であった。この回は、本年度世界文化遺産に登録された「北海道・北東北の縄文遺跡群」の登録推進に深く関わった本会会員の講演を計画していたからだ。実施できたのは、事務局会議、会報の発行などだけであった。各支部でも、支部総会などの会議を始め、多くの会員の集う

事業はほぼ全て中止の状況。唯一、広報活動（交流誌、情報誌、会報の発行）によって、会員のつながりを保った感がある。

今後の活発な活動を願って、近年の活動の一端を紹介する。

県本部では、年一回の総会と懇親会、年二回の理事会、会報発行など。本会は、県内6支部の活動が主体となっている。各支部の主な活動事例。

○研修会

各分野から講師を招いた講演会、小中学校の視察、地元事業所の見学、史跡見学など。

○地域のボランティア活動

海浜公園の清掃、外来植物の駆除を続ける支部がある。

○支部活動の広報誌発行

会員の交流誌、会員近況集、支部だより・情報誌。

○各種懇親会

総会・研修会後などの懇親会で会員間の親睦を図っている。

本県の最大の課題とされる会員数の減少への対策と共に、コロナ禍の経験を踏まえて、変えるべきことは何かを考える時期なのかもしれない。

連携を深める

群馬県退職校長会

会長 松井 和夫

本会の活動目的は、会員相互の連携・親睦を図ること、教育の振興に関すること、他に関係諸団体との連携を図ることなどがあります。総会と宿泊研修会はコロナ禍で2年続けて中止となりましたが、本会主催の「ぐんま教育の日推進大会」は実施できました。さらに、会報発行、会員名簿配付も行いました。

○地域参加を奨励

また、本部事業を見直し収入減に対応する予算編成と共に、連携・親睦の根幹となる支部活動の活性化を図る目的の助成金を増額することができました。

社会貢献として保護司活動に参加している本県校長退職者が約50名います。しかし、定数を満たすのは大変で、依頼もあり、保護司ボランティア紹介リーフレットを全会員に配付して就任

の奨励をしました。

○新任校長へ祝意

退職校長会の存在や活動内容の理解を得ることが必要です。一つの契機にと今年度から新任校長に祝意を表す活動を開始しました。訪問が難しい状況もありましたが、各地区担当者の努力で新事業としてスタートできました。現職校長会とは引き続き広報配付や連絡協議会を行うなど連携を深めていきます。

○ぐんま教育の日推進大会

連携する教育関係団体は11月前後の行事を「ぐんま教育の日関連行事」として位置づけて実施しています。今年の大会では県内の小学校、中学校、高等学校及び県下市町村から地域連携推進に関する各地域に根ざした内容の実践発表が行われました。教育の日制定、推進のため力強い連携が行われています。今後、会の目的を念頭に、会員が所属感、必要感が得られる活動と運営に日々努力していきたいと考えています。

魅力ある組織へ

石川県退職校長会

会長 豎畑 政行

本県が大事にしている取組として以下の4点をあげたい。

(1) 研修活動

小・中・高の校長会代表を招いての教育懇談会は、各校種の現状と課題を知る有意義な場である。

各支部では協議にとどまらず、教育の日や公開研究会に合わせ学校参観を行い、教育の動向を肌で感じる機会としている。

(2) 学校支援事業

今学校現場は様々な外部人材の応援を必要としている。そこで地域学校協働活動事業のコーディネーター、学校運営協議会の委員などを通して学校を支えるよう努めている。

また放課後子ども教室、土曜授業、サマースクール、部活動指導員などの業務も現場の多忙化解消に寄与しているのではな

いか。

この事業の成否は学校現場とのパイプの太さにかかっている。そのため校長会に向いて説明したり、学校現場にパンフレットを配布したりして、事業の趣旨や支援内容を周知するよう取り組んでいる。

(3) 会員の親睦と慶祝事業

会員の親睦を図るため、各支部では総会と合わせて親睦会を持つ場合が多い。大切な場がコロナのため自粛せざるを得なかったこの2年間は、退職校長会の存在意義を薄くしてしまった感がして実に残念である。

(4) 会報による情報共有

「お尋ねに答えてQ&A」は県教委の協力を得て学校教育の現状について知るページ。「輝けセカンドライフ」は会員の生き生きとした日々の活動を紹介するコーナー等々。

知識を深めたり、自分の生きがいづくりにつなげたりと、コロナ禍では会報の果たす役割はこれまで以上に大きい。

創設六十年

記念事業にむけて

教育なにわ会

会長 竹若 洋三

一昨年から昨年にかけて、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、総会・懇親会を中止せざるを得ない中、少人数での会議や書面などを工夫して、乗り切ってきました。特に、三年前から準備委員会を立ち上げて取り組んできた全連退近畿地区協議会大阪大会が、紙上发表となつたのは残念でなりません。

ところで、今年は教育なにわ会が創設されてから六十年目を迎えます。振り返ってみますと、10年前は節目の半世紀を迎えた年でした。多くの来賓の皆様をお迎えして賑やかに式典・講演会・懇親会が行われました。創設五十年記念誌も発行され、多くの方々に読んでいただいたことが記録に残っています。

今までの貴重な財産を次の世代に伝えていくため、創設六十

年事業をどうするかについて役員会や常任理事会・理事会で話し合った結果、次の節目の中間年としてとらえ、テーマを「過去10年の活動内容を整理して次の10年に繋ぐ」としました。内容は記念講演会・懇親会を行なう。創設六十年記念誌を発行する。過去10年の行事を整理して次に繋ぐ等です。

そこで、10月発行の会報七十号では、特集記事として、大阪府下8地区の地区活動の10年の歩みを掲載しました。また、今年1月予定の記念講演会では、元大阪府教育長で、現在桃山学院教育大学学長の中西正人先生に、「ここ10余年の大阪の教育行政」をテーマにお話していただきます。創設六十年記念誌には、60年の歩みとともに専門委員会活動や地区活動、会員の寄稿などを掲載し、発行に向けて着々と準備が進んでいます。

会員の皆様と一丸となって次の10年へと歩みを進めていきたいものです。

鳥取県退職校長会の活動状況

鳥取県退職校長会

会長 中川 俊隆

鳥取県退職校長会では、県内の学校や地域への支援・貢献活動を通して、鳥取県教育振興に寄与するとともに、会員相互の研修・親睦を深める活動を展開しています。

地域貢献活動では、県内各地で行われている地域貢献活動をまとめた事例集を作成し、成果をあげている活動や地域の特徴を生かした活動を紹介することを通して、地域貢献活動をさらに充実させるよう努めています。また、学校支援として、地教委と連携協定を結び、近年急激に増加している新規採用教員の指導に退職校長会会員が直接関わる活動を始めた地域もあります。

会員相互の研修・親睦を深める活動では、会報「積雲」の発行を通して、会員相互の情報交換を深めています。昨年度より、発行回数を増やし、タイムリーな情報提供に努めるとともに、

退職後に会員が取り組んでいる絵画や俳句など文化活動を紹介するコーナーを新たに設けるなど、内容の充実を図っています。また、会員の健康増進や生きがいにつながる活動として、本年度は、相続に関する知識を深めるための研修会を実施する予定です。

昨年度から続くコロナ禍の中、諸会合や行事が実施できない状況ですが、対面での会合を紙面協議に切り替えたり、会報の発行回数を増やすなど、できる範囲で会員への情報発信を続けています。

また、例年行っている県教育委員会への要望も学校現場が新型コロナウイルス対応に苦慮している現状に鑑み、各会員が学校を訪問して、現状や課題を把握した上で、新型コロナウイルス対策に絞って要望を行いました。

今後とも、学校支援や地域貢献活動、福利厚生活動を充実し、会員相互のつながりを深め、退職後の生きがいにつながる活動を進めていきたいと考えています。

「組織の再編が、組織力を高める」

北九州市退職小学校長会

会長 高木 眞

「北九州市退職小学校長会」は戦後まもなく発足し、先輩諸氏の築いた伝統と品格を受け継ぎながら現在に至っています。その歴史は、3つの節目を契機に組織改編し現在があるので

①発足当初は旧5市(門司・小倉・若松・八幡・戸畑)それぞれに、地域経済の発展に合わせた地元中心の運営が徹底されました。②その後、5市が合併され北九州市が発足し、間もなく政令指定都市に指定されました。新しく北九州市支会に統合されましたが、運営は旧5市支会中心でした。③4年前政令指定都市への権限移譲がなされたのを機会に、県から分離・独立して新生「北九州市退職小学校長会」が誕生したのです。この3回の変革は、会員の意

識向上と組織の見直しを図る格好の機会となり、再編が強力に進められたのです。そのエネルギーは工業都市北九州市の「ものづくり」にかける気質そのもので、創造と改革への大きな力になりました。各区の確執がある中、先見の明を持って実行し、支えた会員の決断があったので

そして、現在のコロナ禍における改革せざるを得ない大きな波は、4回目に当たる大社会変革の事態です。世界規模での「日常生活の変化」に伴う「教育環境の変化」や「働き方改革の導入」等の施策が一度に押し寄せて来ました。強力で迅速な対応が迫られる中、国の対応に応じた本会の対策が必要で、鋭意検討中です。

「延期」「中止」が当たり前の生活が、もうすぐ2年になります。今こそ子ども中心の視点で社会や教育を見直し正常な方向に導く「退職校長会」であらねばならないと考えています。

本県退職校長会の組織と活動状況について

長崎県退職校長会

会長 作本 耕一

本県の退職校長会は、公立の幼・小・中・高校(1支部のみ)の退職校(園)長で組織され、現在の会員数は、一七四七名である。

本会は、離島3支部を含む13支部で構成されている。

【本会の主な活動】

〈総会〉2年間中止
年1回開催。来年度こそ全県下の会員が一堂に会して、開催できることを願っている。

〈会議〉一部開催

常任理事会、理事会、支部事務局長会を定期的に開催している。他に4専門部の部会。

〈地区懇談会〉2年間中止

各支部で、現職管理職と教育を語り合い、相互理解を深める場として、重視している。その後、懇親会で交流を深めている。

〈教育の日「関連」〉一部再開

県下公立の小・中・高校で実施される「長崎っ子の心を見つめる教育週間」の学校公開時に実施。各校区毎に本会員が学校を訪問する等して、学校や家庭

・地域とともに教育を考える日として取り組んでいる。

〈福利厚生活動〉2年間中止

全支部参加してグラウンド・ゴルフ大会を開催している。

【本会の課題と対策】

〈課題〉

新入会員の加入率の低下がいちばんの課題である。コロナ禍による本会行事の中止や考え方の変化等の影響が大きいと思われる。

〈対策〉

会員が生き生きと学校支援や社会貢献に取り組む姿をアンケート調査し、その実態を現職校長に紹介するなどして、会の魅力を伝える活動を強化する。

併せて、活動を見直し、より魅力ある会のあり方を組織的に求めている。

地方の会報紙より

「我が人生は、卓球に始まり、卓球で終わるのか！」

坂戸 横田 政行

(埼玉県退職校長会「会報」第173号)

低学年から始めた野球に打ち込んでいた小学校時代の最後に体育の授業で大けがをして右肘を複雑骨折しました。中学校の入学式には、右手の肘にギプスをしていました。そこで、何か軽い運動がしたいと考えて入った部活が卓球部でした。

医者からは右肘に負担になることはだめと言われていました。が、何故か卓球の魅力にとりつかれ、気がついたら大学でも4年間卓球部に所属していました。選手としては大成しませんでした。が楽しい部活動でした。

大学を卒業後教職の道を選び、新任教師としての一步を歩み始めました。大学まで続けていた卓球ですが、教職に就いてからさらに続けるとは考えていませ



んでした。しかし、新任で着任した中学校が前年の全国中学校卓球大会で団体優勝した学校でした。もちろん卓球の指導を期待されて配置された訳ではなかったのですが、たまたま前任の顧問が病気で休むことになり卓球経験者として顧問に就任することになりました。偶然にしてはできすぎのスタートを卓球部顧問として始めました。その後、生徒や保護者そして同僚に恵まれ、2回の全国優勝を成し遂げ、関東大会へも10年連続の出場をするなど、卓球三昧の新任生活を送ることができました。

その後、地元中学校に転勤し、行政の経験を経て管理職になり、しばらく卓球から離れられました。そして、退職を迎える最後の職場で卓球部の指導ができる顧問がいないうちになつて卓球部の指導に復帰することになりました。教えているうちに若い頃の情熱が蘇り、熱心に指導することにになりました。そのために退職後も継続して部活動支援員や部活動指導員として部活の運営にたずさわわり、中学校の部活動の指導を月に40時間ほど

行っています。

また、地元の卓球連盟の会長職を引き受け、会の運営の中でジュニア世代の育成に力を入れています。さらに自分でも学生時代の卓球仲間とチームを結成して、シニアの大会に積極的に参加しています。コロナ禍で大変な生活を送っている生徒ともにも頑張っている毎日です。

日々のプチハピ

龍ヶ崎支部 助川 昌江

(茨城県退職校長会「会報」第119号)

専業主婦となつて4年目。日々、身の丈に合った幸せを実感している。

朝の目ざめで一日のスタート。

今日も元気に目ざめた。幸せだと感じる一瞬である。寢床の中で、今日一日の食事メニューを考える。あの野菜、肉を使って。これだと思いついて3食メニューが決まったときの幸せ。草とりや枝の剪定がうまくでき、きれいになった庭を眺める幸せ。メダカの赤ちゃんが、日々大き



く成長していく姿を感じる幸せ。

「お庭きれいですねー。」と、どこからともなく聞こえる声に振り返ると、マスクはしているが目はやさしく微笑んでいる。「散歩の途中、いつも心いやされていきます。」と言ってくれる言葉に、さらにモチベーションが上がって、幸せ全開になつてしまふ私。

こうしてみると、日常のプチハピは、案外身近なところにあると実感する日々である。

教育における「不易と流行」とは

札幌白石支部 菊地 康敏

(北海道退職校長会だより 第237号)

先月、私が学校評議委員をしている札幌市の市立中学校を訪問した折、学校長の案内で校舎内を見学させていただきました。各学級に生徒全員のタブレットが用意されていたことは驚きでした。全国に緊急事態宣言が出た時札幌市内の私立高校でリモートによる授業が行われている

様子がテレビ放映されていましたが、近い将来中学校でもタブレットを使った授業や登校せず自宅に居ながらにして授業を受けられることも可能になるであろうことも想像されました。

最近、ふと考えることがあります。現代社会で教育における「不易と流行」をどう捉えたらよいか。「不易と流行」は俳諧用語ですが、時代が変わろうと変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しい変化を重ねているものを積極的に取り入れていく事との解説でした。そこで、教育での「不易」の部分とは何か。学校教育を通し児童生徒一人一人の個性を伸ばし将来豊かな人生を送ることの出来る基礎基本を身に付けさせることだと心得ます。また、「流行」とは時代が要請する新しい事柄へ勇気をもって取り組む姿勢。我々の先達が確立した教育での「不易」を大切にしながらも情報社会を力強く生き抜くために教育機器を積極的に取り入れる（「流行」）ことも教育には不可欠なことなのでしょう。教育での「不易と流行」は相反する

事ではなく一方に偏ることなくバランスを考えながら進めることが肝要であると考えます。

最近の新聞報道ですが、すでに国会内では教科書問題プロジェクトチームを立ち上げ「紙の教科書をデジタルと併せて、いかに活用していくかを考える必要がある」との指摘がなされていると報じられていました。このような教育の大きな変わり目に立ち会い活躍される先生方の奮闘に心よりエールを送ります。



希少植物に出会って

津久見市 高野 憲太郎

（大分県退職校長会「会報」第174号）

退職後をどう過ごすか考えていた時、「大分県希少動植物保護推進員になってほしい。」という話がありました。

野外活動や登山が大好きだったので、直ぐに引き受けました。その時は第二次大分県レッドデータブック（RED）調査の真つたただ中だったので、RED調査員にも推薦されました。

引き受けたものの、希少植物については、津久見市にあるタガネランについてしか知らなかったもので、図書館通いをして真剣に勉強しました。

「絶滅危惧種にはどんな植物があるのか、過去どこで確認されたのか。」「希少植物の保護はどうすればいいのか。」など、調べる事はたくさんありました。

「保護をするには、絶滅危惧種がどこにあるか知らなければできない。」という結論に至り、できるだけ時間を作り、この三年間、楽しみながら野山を歩き回っています。

一年目は五十五日間の活動でしたが、十三年間では、平均六十二日間活動しています。

自治会役員や各種役員の仕事の合間をうまく使って、楽しんで活動してきましたので、できたことだと思っています。

活動してきて感動したのは、妻と二人で観察に行った時、大分県で初めてキバナノセッコク（写真）を確認したこと。その他にもノウルシ・トウオオバコ・シロバナツルボなどを確認できたことも良い思い出です。

現在、第三次RED調査を終えようとしています。あと七、八年後には、第四次RED調査がある予定です。その時まで健康に過ごし、第四次RED調査に参加するのが、残りの人生の夢の一つです。



ある日の出来事

理事 河口 洋二郎

（岐阜県退職校長会「会報」第197号）

ある日のエレベーターでのこと。扉が開いて降りようとした私の目の前に大人が二人立っていた。あまりにも真正面だったので、（すみません、降りますので）と言いかけたそのとき。横にいた女の子（小学校三、四



年生ぐらい)が言った。

「降りる人が先だよ」

二人は驚いたように一瞬間を上げ、ほんの少しだけ道を空けてくださったものの、無言のまま、すぐにうつむいた。隙間をすり抜けるようにして私は降りた。振り返ると少女と目が合った。(ありがたい)と手で合図を送った。彼女は首を少し傾けにっこり微笑んだ。降りる人が降りなければ、乗る人は乗れない。

「降りる人が先」は至極最もだ。しかし、当たり前のことが当たり前のこととして受け止められない現実が厳にある。「他人のことなど構っておられるか」といった風潮が漂う。だからこそ、この少女の言葉が爽やかな風を運び、その笑顔のおかげで大切なものに巡り会ったような気がした。

コロナ禍での暮らし

筑紫支会 築地 静枝

(福岡県退職小学校長会「会報」第121号)

早いもので、退職小学校長会



筑紫支会総会に出席するようになって二十年が経過しました。最初の総会出席の時は、小学校時の恩師もおられたので緊張しながら、新会員の挨拶をした事を思い出します。私はその後、一回の欠席もなく総会に出席しています。総会に出席しますと、

県退職小学校長会及び筑紫地区小学校長会の来賓の皆様から、その年々の教育の動向情報を聞く事が出来ます。また、その後開催される懇親会では、出席の皆様との更なる絆を深めることが出来ていました。

昨年・本年とコロナウイルス感染防止のため中止になり、例年のような教育界情報を聞く事や親睦を図る事は出来ませんでした。が、四月初めに、筑紫支会で一年おきに発行している「梅花香信」第十九号が届きました。この会報は、コロナ禍の中で会員の皆様の教育・地域・自然等に対する関わりや日々の想いを知る事が出来、筑紫支会の目標でもある「連帯」を強めていく貴重な情報源です。

私は、未だ続くコロナ禍の沈みがちな状況の中で、季節の折

紙を折ったり、町内の四季折々の花々を写真に撮ったり等の趣味を通して、明るく乗り切って行きたいと思っています。

雑感 — コロナ禍と —

オリンピックの間で —

西村山支部 安孫子 一彦

(山形県退職校長会「会報」第110号)



退職して五年目を迎えた。五月生まれなので、早目に高齢者の仲間入りをした。お陰で、コロナウイルスのワクチン接種を終えたし、年金は八月から満額支給される。金額は別として、

二月や三月生まれの友人に比べれば幸いである。散髪代やスキ一場のリフトにもシルバー料金の設定があり、世の中は意外と年寄にやさしい。年をとるのも悪くない。

皮肉めいた言い方で恐縮だが、これは、私が社会的弱者になったことを意味する。高齢者は体力も経済力も衰える。彼等に健康と生き甲斐を提供しようという善意が形になったものである。

確かに有難いことではあるが、今の私にとって、そういう扱いを受けることと、自分自身のイメージがどこか違っている。今は「いいか、オマエは高齢者になつたんだぞ」と自分に言い聞かせているような節がある。人はいっ、心身ともに高齢者になるのか。十年経てば後期高齢者だが、その時は自分にこう言い聞かせようと思う。「まだ七十五。若い、若い!」と。(大先輩の読者の方々には「何を偉そうに」と笑われているに違いない。)

退職後の暮らしは、人それぞれである。比べて云々するものではないが、比べようにもコロナ禍の中ですっかり疎遠になつてしまい、ほとんど情報が入らない。孤独で寂しいという訳ではないが、人と人の距離がいき、分断されているように思う。県外に住む仲の家族とは、もう二年近く会っていないし、昨年三月に海外で生まれたハーフの孫は、まだ一度も抱っこさせてもらえない。しかし便利なもので、隣町にいようと、何キロ離れていようと、スマホの動画や

写真で届く情報量は同じである。ぬくもりと匂いを望まなければ「知る」ことはできる。

さて、コロナ禍のオリンピックで連日日本人の活躍が報道されている。今日の東京オリンピックを見ながら心に想い描くのは五十七年前のそれである。父が買ってくれたカラーテレビを、食い入るように見ていた私は小学二年だった。競技を見ながら人として何が尊いか、語り合う大人の姿が誇らしかった。

この数年、国には期待する程の力も正義もないことに失望している。国が教育を語るのではなく、教育が国を語るべきなのである。

切り絵と私



印旛 中山 敏栄

(千葉県退職校長会「会報」第89号)

私の切り絵との出会いは、教員になって三年目、もう四十五年以上も前のことです。中学校の青少年赤十字の加盟校に勤務していた私が、生徒会のリーダー

育成のため、トレーニングセンターに行った時のことでした。体験学習の中に「切り絵」があり、生徒があまりにも夢中にな

って取り組んでいたもので、私もやりだしたのがきっかけです。小刀やカッターを使い慣れていた私は、簡単に切り抜くことができました。そして、その黒い紙のカッターの線にすっかりはまってしまったのです。それから通信教育などの教材を取り寄せたりして少し勉強なども致しました。数年後、切り絵クラブや適応指導教室において、指導するようになりました。生徒の上達は早く、大胆な色使いに驚かされたことも度々ありました。嬉しいことは、卒業した生徒から「今も切り絵をやっています」「自分の子供にも教えています」との報告を受けたことです。

切り絵は本来、白黒の世界ですが、私は彩色して楽しんでいきます。彩色の仕方も色々ありますが、色紙のパーツを切り取り、裏から張り付ける方法です。最近では色々な折紙があり、和紙を使うと落ち着いた感じになり、

紙の質やグラデーションを生かすと立体的に見えるように工夫ができ、世界が広がりました。プロの切り絵作家の作品を見ると、どうしてこんな細い線を切れるのか、私の技術ではとても出来ないような作品が数多くあります。私は、自分ができる自分の好みのデザインにして「誰でもできる簡単な切り絵」を今でも作り続けています。

近年のコロナ禍においては、身近な花を妻に描いてもらい、私が太い線で切り絵風にアレンジして原画を作製し、葉書サイズにして夫婦で切り絵を楽しんでいます。

人間の手では表現できない、カッターの作り出す線に魅せられた私は、これからも切り絵に親しみ、生涯の楽しみにしていきたいと思っています。

次の一手



久慈支部 益子 智好

(茨城県退職校長会「会報」第119号)

今年は果実の成績が良い。梅、

プラム、桃等をジャムやジュースに加工して配り、多くの知人に喜んでもらった。栗や柿も順調。多少毛色は違うが、原木舞茸や干し芋も好評で、早くも催促の問い合わせがある。

定年退職を数年後に控えた頃、永世棋聖米長邦雄さんの「六十歳以後」という本に出会った。「一つの終わりは一つの始まり、現役と全く別の環境で変わる勇氣をもとう。」とのフレーズに、とりあえずやってみよう、とりあえず植えてみよう、ネットで調べて独学で始めたものばかりである。

米長さんは70歳が人生のピークだと言う。もう一段ギアを上げて、新しく自分を変えなければ。あと5年だ。どこを変えよう。何を始めようか。候補はほぼ煮詰まってきた。そろそろ仕込みの時期である。

コロナ禍の不自由な毎日とはいえ、人生百年の時代、身の丈以上に背伸びして、思いに正直に生きてみたい。

五反田だより

各支部においては、生涯学習部に類する活動が活発に展開されていることと思えます。例えば、俳句・短歌、写真、ハイキング、ゴルフ、陶芸、将棋・囲碁等々、伝統的にクラブ名を引継ぎ定期的な活動が実施されていることでしょう。

これらの諸活動は、健康の為に趣味を通して互いに人間関係を豊かにする意味でも有効な活動であり、全連退の活力の基となっていることと思えます。

私も、囲碁クラブに所属しており、年五回のお手合わせと宿泊を兼ねた大会があります。また都の大会が春と秋に開催されていますが、残念ながらこの二年间はコロナの影響で中止となっています。

昔は、学校の宿直室には大体碁盤が置いてあり、そこで囲碁を楽しむ姿が見られたのですが、近年はほとんど見かけるこ

とはありません。とてもそのようなゆとりと時間がないのが現状でしょう。

さて、囲碁との出会いですが、今から四十数年前、島しょでの勤務を経験する機会がありました。赴任した島では伝統的に囲碁が盛んな所で私もすぐに囲碁の仲間に加えてもらいました。

囲碁の手解きをしてくれた方は、ケンカ碁で相手の石を取るのが得意でした。一局終わると碁笥の蓋に取った石が山盛りになっており、その石を相手の地に埋めるのを楽しんでいました。最初に教わったのが少々荒っぽい碁だったせいか、今もってその悪いくせが抜けません。でも囲碁の縁で島の皆さんとも親しくなれたことが良かった。

囲碁は手談とも言って一手打つごとに黙っていても相手と無言の会話ができるゲームで奥が深い。「着眼大局着手小局」という格言を信条として更に上を目指したいものです。(MY)

◇10月

- 4 部長会
- 21 教育課題委員会
生涯福祉部会

◇11月

- 15 事業委員会
- 16 部長会
- 22 常任理事会
- 29 教育関係23団体全国集会
- 22 広報部会
- 29 広報部会
- 教育課題委員会

◇12月

- 6 広報部会
- 9 部長会
- 15 本部研修会
- 21 教育課題委員会
- 24 事業委員会



全連退会員
バッジの着用を

全連退会員として、バッジを着用して、会員としての自覚と、つながりを求めましょう。
送料を含めて、一個一、二〇〇円です。
なお、三十個以上まとめますと、一個一、〇〇〇円となります。
(全連退事務局)

編集後記

○新しい年を迎えました。新型コロナウイルス感染者数が昨年未から減少傾向にあります。が、予断を許さない状況のようです。十分ご自愛ください。

○都道府県だよりからは、各都道府県の退職校長会が、コロナ禍の中で努力されている様子が読みとれます。

○今回も、地方の会報紙から多くの文を掲載しました。ぜひご一読ください。

○今回の会報は諸般の事情により12ページ建てとしました。

全連退会報 (222号)

発行 令和四年一月一日
発行所 東京都品川区東五反田
五二一三三三三〇八
全国連合退職校長会
電話 〇三三四四二八七六八
FAX 〇三三四四二八七六八
Email: info@zenentai.org
振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇
責任者 入子 祐三
印刷 株式会社 信行社
電話 〇三三三八三三三六二二